広島たすけ隊と協力し、被災家屋の修繕を支援

74人が犠牲となった広島土砂災害から1年が経ちました。被災地を訪れると、街の外観は平静を取り戻しているように見えます。しかし、一目で確認できるほど、被災地の実態は単純ではありません。

ハビタット・ジャパンは、現地の支援団体である一般社団法人広島たすけ隊と協力し、被災した家屋20軒分の床下の汚泥除去などを行ってきました。現地には様々なニーズがありますが、床下浸水した家屋の問題は特に深刻です。梅雨がきて、被災後に一度は乾いていた床下の汚泥の湿度が再び上昇すると、細菌が発生して広がり、居住者の健康を害する恐れがあります。それに加え、細菌の蔓延がシロアリ発生の原因につながり、知らず知らずの間に建物の安全性をも脅かす可能性もあります。

また、ケアが必要なのは家屋など物の被害だけではありません。家族や友人を亡くした人々はもちろん、コミュニティも、多くのものを失いました。被災地に暮らすある方は、「うちは完全に無事でしたが、隣の家は跡形もなく流されてしまいました。災害の前はお裾分けをするために、よく勝手口から隣の家に行っていたのだけど、その癖が抜けなくて。つい勝手口を開けたりするんだけど、そこにはもう何もないんです。自分だけが生き残ってしまって…雨の日が来るたびにつらくなります。」と言います。

広島たすけ隊の代表を務める小宮さんは、「あと3年、あるいは、せめて砂防ダムが完成してここに住む人々が安心して暮らせるようになるまでは寄り添っていきたいです。」と語ります。ハビタット・ジャパンは、災害1年の節目を機に緊急支援を終了しますが、今後は学生支部やボランティアへの参加呼びかけなどを通じて、広島たすけ隊の活動をサポートしていきたいと考えています。

01

4,500軒を超す住宅が被害を受けた災害当時の様子。床下に堆積した土砂が乾燥し、ひび割れを起こしています。

02

カビや悪臭の発生による健康被害を防ぐため、土砂の撤去とともに床下の消毒・石灰の散布を実施。

03

作業後、きれいになった床下。庭の土砂撤去や草刈りなども行い、以前通りの形を取り戻すことができました。

What is "Hiroshima Tasuke Tai"?

広島たすけ隊とは？

土砂災害被災者支援のため県内の有志により立ち上がった支援団体です。家屋内外や用水路など公共設備の土砂撤去・清掃、引っ越しサポートなど復興支援活動を行っています。

2015年5月には、南安佐区を中心に活動する地元団体として唯一のNPO（一般社団法人）になりました。今後も支援活動を継続していきます。ボランティアも随時募集中！

Let's do it together!

広島たすけ隊代表
小宮 一郎さん

TOPIC

HFHJ Newsletter 35

カーター・ワークプロジェクト ボランティア大募集！

活動日程：2015年10月31日（土）～ 11月8日（金）9日間

毎年ジミー・カーター元アメリカ大統領夫妻の協力を得て行うカーター・ワークプロジェクト。ハビタットの理念と活動に賛同するカーター夫妻は、毎年自ら世界中から集まるボランティアを率い、建築活動をおこなっています。今年は、ネパールにボランティアが集まり、一週間で100軒の家の建築に挑みます。貧困に苦しむ家族の自立と、震災からのネパールの復興を目指して、地元の家族とボランティアが力をあわせて活動します。

ボランティアとして参加しませんか？

▶まずは、info@habitatjp.orgまでお気軽にご連絡ください

今年はネパールで活動します。

カーター・ワークプロジェクトは今年で32回目！
過去にもさまざまな場所でプロジェクトを実施しました。

2011

ハイチでのプロジェクト

2012

ハイチでのプロジェクト

2013

アメリカでのプロジェクト

2014

アメリカでのプロジェクト

今月のハビびと

ハビタット・ジャパンで活動する、熟き人々

中里 萌恵さん

文教大学
Habitat Bunkyo Karon代表

4月、ハビタットの学生支部、文教大学Karonのメンバーが、神奈川県立川崎高等学校で国際協力について訪問授業を行いました。国際協力やボランティア活動をもっと身近に感じてほしいというKaronの思い、高校生に届いたようです！

高校生のころから国際協力のことを考えてもらいたいと思っていたところにご依頼があり、思い切ってやってみようということになりました。私たちが特に伝えたかったことは、二つ。一つ目は国際協力の身近さ。誰にでもできるということ。二つ目は住居貧困問題の重要性。なぜ家を支援しているのか、家がないことがどうして貧困につながるのかを伝えたいと思いました。参加した高校生は、ディスカッションで自分の意見を言ったり、誰かの意見を聞いたりしているとき、いきいきとしていました。はじめは国際協力に興味がないと言っていた子が、授業が終わるころには少し興味がわいてきたと話してくれました。そんな小さな変化を見ることができ、何かのきっかけになれたのかなとうれしく感じました。

授業を受けた川崎高校生徒さんの声

- 今回の授業への参加は、国際協力やボランティアについて考える機会になりました。貧しい人は思しい思いをしていると思っていましたが、楽しいこともあるし私たちと変わらないんだなと分かりました。
- 海外へ行ってボランティアをする人は少し怖い印象があったけど、現地の方々の雰囲気のお話しを聞けて人との繋がりがある良い印象に変わりました。高校生にもできることを色々と考えることができ、もっと自分が国際協力に参加していきたいなと思いました。
- いろんな人の考えが聞けて、自分の考えも変わり、ためになりました。😊Karonの皆さん、来ていただきありがとうございました。新しい考えが増えたので楽しかったです。これからも頑張ってください！

編集後記

ネパール地震より4か月が経とうとしています。多くの方々が命を失った災害。カトマンズにいるハビタット・ジャパンのスタッフからリアルタイムで伝わってくる現地の状況に、胸を苦しくしたことを昨日のように思い出します。しかし、時間は過ぎていくもの。日本のメディアでネパールに関する報道を見る機会は大幅に減りました。同じ地震国であるからこそ、私達でできることがあるはずです。その第一歩が、忘れないこと・忘れさせないことではないでしょうか。皆さまのご協力、どうぞよろしくお願いいたします。(M)

Habitat for Humanity® Japan

特定非営利活動法人 ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン
〒162-0843 東京都新宿区市谷田町 2-7-15 近代科学社ビル3階
Tel: (03)-5579-2550　Fax: (03)-5579-2551
E-mail：info@habitatjp.org　URL：http://www.habitatjp.org

ハビタット・フォー・ヒューマニティは、住宅支援を通してコミュニティを築く自立支援型NGOとして、これまで、人種、宗教、国籍に関係なく世界約80の国で60万軒余の住宅建築支援を行ってきました。

HFHJ News Letter 35

2015 August

Habitat for Humanity® Japan

ハビタット・ジャパン ニュースレター
第35号 2015年8月発行

活動の現場から

ネパールに支援を

広島土砂災害支援

ネパールに支援を

2015年4月25日にネパールで発生した大地震では、
多くの建物や家屋が倒壊し、8,500人以上が命を落としました。
また、インフラも大きな被害を受けました。❶
震災後の首都カトマンズでは、地震で家を失った人々ばかりか、
家は崩れていないけれども余震の恐怖におびえて帰宅できない人々が、
寄せ集めのビニールシートや毛布などで作った簡易テントで
野外生活をする姿が見られました。❷
雨季の激しい雨風を凌ぐために、
危険な状態にある自宅に住み続ける被災者や、瓦礫等を再利用して
急場の住まいを確保している被災者も、少なくありません。
災害から数か月が経過したネパールでは、
未だに沢山の家族が「安心できる居場所」を必要としています。

震災発生時、ハビタット・ジャパンのスタッフが、
大地震が起こる可能性が高いと言われていたネパールで
耐震や防災・減災の支援プロジェクトを立ち上げるために、
カトマンズで調査を行っていました。
倒壊するビルや家々を前に、改めて防災の大切さを感じました。
家は、「命を奪う」のではなく、「命を守る」べきである。
このような信念に基づき、ハビタット・ジャパンは、ネパールへの支援を行っています。
改めて地震の恐ろしさを感じた今だからこそ、耐震や防災・減災に焦点を当て、
ネパール支援プロジェクトを中長期的に展開していきます。

❶

❷

INTERVIEW

現地で防災支援にあたるスタッフの想い

地震の後、日本にひと月ほど一時帰国してからネパールに戻りました。改めてこの国のおかれている大変な状況を見て、この国の再建、そして安全なネパールの実現には本当に長い年月が必要なのだろうと実感しました。*"If you want to go fast, go alone. If you want to go far, go together"*（速く行きたいなら一人で行け。遠くまで行きたいならみんなで行け。）という言葉があります。もどかしく感じる時もありますが、"go far"、ネパールのために良きものを長期にわたって提供するには、地道に現地の仲間の一員として皆と活動していくのが近道。そう信じて、本日も活動しています。

ハビタット・ジャパン　スタッフ
徳地 宣子

色々な支援の形

▸HuMAT

ハビタット・ジャパンは、被災した住宅の危険度診断を行っています。国家資格を持つ現地の建築士ら2人1組で構成するモバイルチーム（HuMAT: Habitat for Humanity Mobile Assessment Team）が被災した家屋を一軒一軒訪問して調査を行い、家屋が受けた構造被害や今後予想される構造欠陥の可能性を指摘します。今後も起こると予想される大きな余震や、長い雨季の間、雨にさらされた末に建材が劣化することで、建物倒壊などの被害が起こるのを防止することが目的です。また、それに合わせ、ネパール政府が被災者のために実施する公的支援（生活再建支援金や住宅ローン等）に関する情報を被災者の方々に提供したり、その制度等に申請する上で知っておくべきポイントなどを助言します。さらに、危険度診断によって家屋に問題が見つかった際、それが簡単な補修等で直せるのであれば、そのために適した直し方や必要となる工具の種類などについて指導します。これらのアドバイスを通じて、被災者の方々の一日も早い生活再建を財政面、技術面から後押ししていきます。

国家資格を持つ建築士でモバイルチームを編成！

パキスタン大地震被災者支援活動（2006年）の際のモバイルチーム

▸シェルターキット配布

ハビタット・フォー・ヒューマニティは、地震などの災害時には、住宅修繕や再建に使えるキットを配布しています。今回のネパール地震では、ハビタットはテンポラリー・シェルターキットの配布を行いました。このキットには、トタン、スチールの骨組み、鉄筋や工具などが含まれています。これらの物資は、一時的なシェルターを建てるだけでなく、後で新しい家を建てる際などにも役立てることが出来ます。

テンポラリー・シェルターキットを受け取ったサプコター家

シータ・サプコタさんは、2人の子どもと暮らすシングルマザー。地震時に慌てて外に逃げて以来、ビニールシートで作った小さなテントを張って沢山の親戚と野外で暮らしていました。農業を営むシータさんにとって雨は恵みをもたらす不可欠なものですが、寄せ集めの木材で作ったテントでは悪天候から家族を守れません。「例年はモンスーンが待ちきれないのですが、今年は激しい雨風を恐れていました。」
ハビタットがシータさんの村に来たのは6月3日。「ハビタットとボランティアの皆さんに感謝の気持ちしかありません。」という一家は、終始笑顔でした。

▸ウォーター・バックパック

ネパール中央部に位置するゴルカという町で、ハビタットは8,000個のウォーター・バックパックを配布しました。このバックパックは、飲み水を運んだり保管することができ、12リットル以上の水が入ります。避難生活を続ける家族が安全な水を確保するのに役立ちます。

▸瓦礫撤去

ハビタット・フォー・ヒューマニティは、地元のボランティアと共に瓦礫撤去を続けています。地震直後には、現地の大変な状況にも関わらず、「私にできることをしたい」と、若者を中心に100人近くのボランティアが集まりました。

今、未来の命を守る

4月25日に発生したネパール地震の揺れは、「震度5」程度だったと言われています。この規模の地震で大きな被害が出ることは日本では考えられませんが、ネパールでは50万軒もの家屋が全壊し、8,000を超える多くの人命が失われました。このような大きな違いを生む要因の一つが、「住居の耐震性」です。レンガを積み重ねて建てられた一般的なネパールの住宅は、多くの場合施行の際に適切な建築技術が使われておらず、地震の揺れであっという間に崩れてしまい、人命を奪う可能性があります。
ハビタット・ジャパンは、このような状況で失われた命は、本当は「守れる命」だったと考えています。地震で多くの方が犠牲になった今こそ、地震に強い「命を守る家」をネパールに広めようとプロジェクトを始めました。

ハビタット・ジャパンが出会った画期的な耐震テクノロジー

PPバンド耐震補強

PPバンドを施行中

PPバンドとは、荷物の梱包などに使われるプラスチック製のバンド。一見何の変哲もないこの資材ですが、メッシュ状にしてレンガの壁を挟むことによって、一気に建物全体が崩れるのを防ぎ、中にいる家族が生存する空間、そして逃げ出す時間を作り出すことができるのです。ハビタット・ジャパンは、これを研究開発している東京大学と協力し、PPバンドプロジェクトを進めていきます。

PPバンドの画期的なポイント
- ☑ 世界中で簡単に手に入る
- ☑ 安価　☑ 施工が簡単

このおかげで、ネパールでも、低所得者層家族が安心できる
耐震性の高い家を手に入れることが可能になります。

今だからこそ、ネパールに「命を守る家」。ネパールの家族と一緒に揺るぎない未来を築きませんか？

ご支援お願いいたします

ネパールでのPPバンド・プロジェクトを進めるため、皆さまのご協力が必要です。こちらからご支援を受け付けております。
http://www.habitatjp.org/jpblog/2015/04/donation-NPeq.html

Comment from a supporter

ネパール支援をカナダから支える
ハウスサポーターの上田さん / 建築家

ネパール地震の惨状が伝えられるにつれ、コストパフォーマンスに支えられた石造りや、日干しレンガ造りのような地元の伝統的工法と人命保全との隔たりが、昔ながらの文化が活きる地域では顕著だと感じました。ネパールの復興には、長期的な支援が必要となる中、ハビタットであれば地元の人に有効な支援が地道にできると信じています。ハビタット・ジャパンには、現地のカルチャーを尊重しつつも、地震国日本として、地震に強く、人命を保全できる住居・インフラを含めた街作りを現地の人と一緒に提言していってもらうことを期待しています。

メディアの皆さまへ

Please Contact us!

ネパールの、そして世界の「明日の命」を守るため、防災・減災についてのメッセージを広めていただけませんか？

ハビタット・ジャパンは、PPバンド・プロジェクトに関する情報を中心に、「命を守る家」についてメディアの皆さまと共に発信しています。地震大国日本のテクノロジーには、世界で命を救える可能性があります。それを伝えることが、命を守る第一歩です。

まずはお気軽にご連絡ください
comms@habitatjp.org / 03-5579-2556